

1920

シリーズ
とやま20世紀

大正9年2月21日(土)

禍いを転じて工業立県の礎に 県営発電事業はじまる

この日、県が常願寺川水系で水力発電を行うための計画案が臨時県会で可決、全国初の県営発電事業が開始されることになった。急流河川が多い富山県では、昔から洪水が多く、県財政は治水事業の重圧にあえいでいた。県営発電事業は、治水事業のかたわら水力発電所を建設し、その電力で工場を誘致するとともに、収益を治水事業の財源にしようというもので、「治水」「産業振興」「財政再建」の一石三鳥を狙ったものであった。県内には、安くて豊富な電力を求めて工場の立地が進み、1942(昭和17)年には工業生産額全国九位となる。県営発電事業は、水禍^{すいか}を福に転じ、富山県を電源王国、そして日本海側有数の工業県へと発展させるうえで大きな役割を果たしたのである。



県営発電事業で最初に建設された
中地山発電所